

## ●●「消防団員安全管理セミナー」、「S-KYT研修」を実施して●●

御殿場市・小山町広域行政組合消防本部

### 1 はじめに

西に霊峰富士を仰ぎ、東に箱根外輪山、北に丹沢山地に囲まれた美しい自然と緑豊かな高原に御殿場市があります。

町村合併促進法により、昭和30年に現在の御殿場市が生まれ、昔、富士講と呼ばれた人達が富士山に登ったが、明治22年（1889年）2月1日にJR東海道線が開通し、御殿場駅が設置されました。夏の登山期には、御殿場口や須走口は全国からの富士登山者で賑わい、今では新五合目まで車で直行しての登山が主になっています。

また、広大な大野原といわれている大草原を有しており、明治後期（明治42年）には旧日本陸軍の演習場として使用されていました。

昭和34年に本州最大である東富士演習場の使用協定が結ばれ、現在、東富士演習場は自衛隊が使用し、3つの駐屯地（板妻・駒門・滝ガ原）があり、自衛隊の街として知られ、また、在日米軍海兵隊の富士営舎地区（通称、キャンプ富士）があり、市地域の約3分の1が防衛関連で利用されています。

日本が誇る富士山、その麓に位置する御殿場市では富士山が与えてくれる豊かな自然環境に調和し、更にこれを育むまちづくりと、雄大な富士山にふさわしい、心が大きくて思いやりのある人づくりを進め、だれもが生きがいと誇り

を持って暮らすことができる、人と環境が共生するまちを将来都市像「緑きらきら、人いきいき、御殿場」として表しています。

平成20年11月からこの富士山への愛着心から、自動車のナンバーが沼津から「富士山」になり、御殿場市の原動機付自転車のナンバープレートも「富士山」をイメージした形のを交付しています。

### 2 御殿場市消防団のすがた

昭和30年2月11日、1町4村の合併により御殿場市が誕生しました。それに伴い、消防団も合併し御殿場市消防団として発足し、消防団員611名で活動を開始しました。その後、昭和31年1月1日に1村が御殿場市と合併し、消防団員733名となり、翌年、昭和32年9月1日に1村の一部の地区が御殿場市に合併し、団員746



指差確認

名、消防ポンプ自動車9台、可搬式ポンプ28台、腕用ポンプ29台となりました。

昭和40年4月1日、御殿場市消防本部・消防署が設置され、それに伴い消防団は消防団と各地区の火防隊とに再編成されました。消防団は条例定数376名、消防ポンプ自動車11台、可搬式ポンプ15台の少数精鋭を図った編成替えとなり、その後、可搬式ポンプを消防ポンプ自動車に切り替え、6分団26部となり現在は実員数360名、消防ポンプ自動車26台、林野火災工作車1台の計27台を所有し、全車両C D - 1型4WD、3tウインチ付、可搬式ポンプ積載車の近代的な装備と機動力を備えております。

### 3 御殿場市消防団連絡会議活性化対策専門部会の設置

平成19年3月に、御殿場市消防団活性化対策委員会より「御殿場市消防団の活性化に向けての提言」がなされ、その中で、4項目の課題に盛り込まれた8点の提言があり、市長及び消防団長に手交されました。

御殿場市として、消防団の地位向上と活動し



タッチアンドコール

やすい環境整備に力を入れていくが、消防団自らも更なる活性化に向けて取り組みをするようにと、御殿場市長から通知がありました。

このことにより、御殿場市消防団連絡会議において、消防団活性化対策専門部会の設置について協議し、同連絡会議内部に専門部会を設置することを決定しました。今後、専門部会において、消防団のさらなる活性化に向けて組織的な取り組みの検討を推進する組織を整えました。

「また、専門部会の活動は、年数回の部会開催・先進地の視察・市民、事業所へのアンケート調査や消防団員確保アドバイザーとの意見交換会等で、全国的な消防団員減少が進んでいる現在、消防団が抱える様々な問題について、具体的な方策を検討しています。

### 4 公務災害防止事業を実施した経緯

日頃から当市消防団では、消防団員に対する安全管理の教育研修として、消防職員による消防ポンプ自動車の運行や機械器具・資機材の取扱等の研修を実施してきました。

また、隔年行う消防団に係る事業として、団幹部研修会を開催してきました。

しかし、研修内容は視察研修や防災についての講演会といったものが主であり、専門的な安全管理の教育などの研修は今まで実施されていませんでした。

平成19年度には、3件の公務災害が発生したことも一因となり、今回、研修を実施することになりました。この3件の公務災害は、いずれも訓練時に発生したものです。